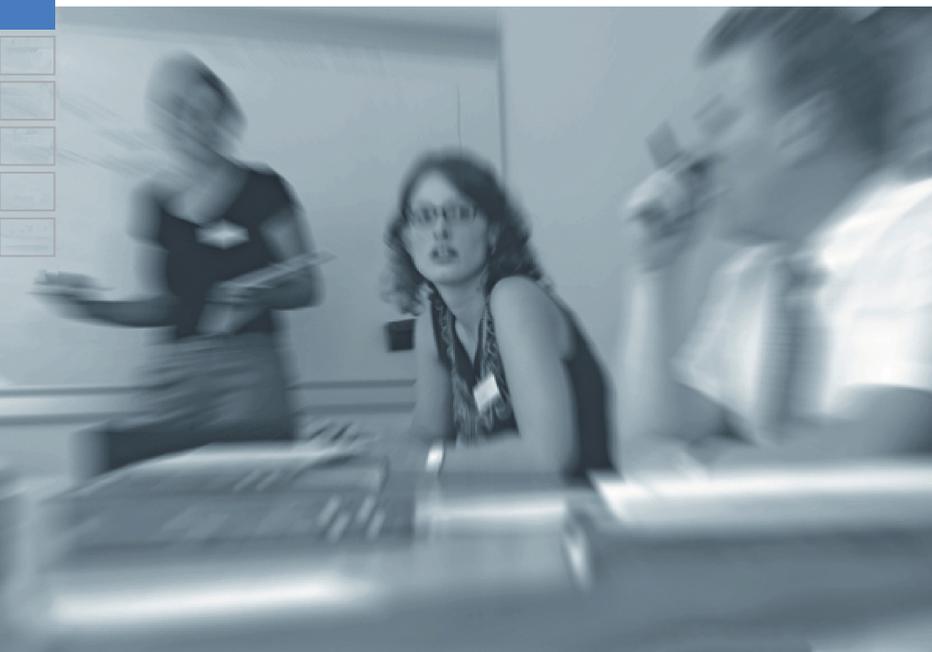


英語教職課程履修生ための省察ツール

『言語教師のポートフォリオ』

導入へのストラテジー



J-POSTL
Japanese Portfolio for Student Teachers of Languages
A Reflection Tool for Professional Development

JACET 教育問題研究会
<http://www.waseda.jp/assoc-jacetedu/>



英語教職課程担当者の皆様へ 『言語教師のポートフォリオ』導入へのストラテジー

『言語教師のポートフォリオ』(J-POSTL)を英語教職課程に導入し、その教育効果を促進するためには、ある種の戦略が必要です。以下、基本的な導入戦略を紹介しましょう。

導入への準備

1. J-POSTL の内容と理念を十分理解する。
2. 英語教職課程の編成、担当の講座・実習指導などと J-POSTL との関連性を明確にし、【英語教職課程編】か【全編】のどちらを使うか決める。
3. 英語教職課程の編成、担当の講座・実習指導などに J-POSTL の内容を組み入れる。(例：自己評価記述文の 7 分野のうちどの分野を、あるいは、どの領域を、あるいは、どの記述文を重点的に組み入れるかを決める。)
4. 担当の講座の履修生に J-POSTL を紹介するための可能な方策を考案する。(例：主な 3 つのセクション(自分自身について、自己評価記述文、ドシエ)のうち、どのセクションから使い始めるかを決める。)
5. J-POSTL を使って授業力や省察力を高める方法を科目や実習担当者間で議論し具体的に示す。(例：模擬授業などを録画し、自己評価記述文を利用しながら省察させる。／教育実習の際に、実習校の指導担当者と連携を密にし、J-POSTL の使い方について共通認識を持つ。)
6. 履修生に対し、J-POSTL は教師教育の国際的な自己評価ツールであるという認識を高める。(例：序文を利用するのは当然として、本研究会やヨーロッパ現代言語センター(ECML)のホームページ(<http://epostl2.ecml.at>)から必要な資料をダウンロードして活用する。)
7. J-POSTL の活用方法を、使用目的や対象学生の現状に合わせて研究する。
8. 履修生のフィードバックを収集する。

勤務校の教職関連科目担当者(同僚)との協働

1. J-POSTL の活用経験を同僚と共有する。
2. 言語教育に携わるすべての教員の協力を求める。
3. J-POSTL 活用事例の発表会を開く。
4. J-POSTL 活用の利点を調査・研究する。
5. J-POSTL の多様な活用方法について議論する(例：教科教育法、教育実習、授業での課題(宿題)、期末レポート。)

行動計画

1. J-POSTL の首尾一貫した活用方法を定着させるために、同僚と協調して実践を試みる(例：授業科目によって利用する自己評価記述文を決める。)
2. J-POSTL の具体的な活用計画(目的、内容、時間、など)を同僚と合意する。
3. 実習校の管理職や指導教員と連携する。

ネットワークの構築

1. 教職課程担当教員、実習校の指導教員、その他教師教育関係者のためのセミナー、ワークショップ、研究会などを開催する。
2. 教職関連の大学間で J-POSTL の活用や普及方法に関するコンソーシアムを組織する。

公的機関などからの支援

1. 文科省、教育委員会、言語教育関連学会、各学校の校長などに対して、研究会の開催、研究会・学会などの報告書・発表レポート・論集の送付などの手段を用いて広報活動を行う。
2. 全国的なネットワークの組織化への支援を求める。